

遠野スタイル創造・発展総合戦略のK P I の実績について（令和元年度）

プロジェクト名	番号	内容	単位	現状 (26年度)	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	達成率	達成状況	成果・評価	担当課	総合戦略 掲載ページ		
【重点プロジェクト1】 雇用確保のための内発 型・外発型商工業の振興	1	創業支援件数	件	7	目標数値	5	5	5	5	6	166.7	達成	遠野市創業支援計画に基づき、遠野市と遠野商工会が連携して遠野市創業塾の開講など創業支援に取り組んだことにより、令和元年度は10件の新規創業を支援した。	商工労働課	47		
					実績値	12	6	8	14	10							
	2	新規学卒者雇用数	人	71	目標数値	74	77	80	83	86	47.7	未達成		高校生就職支援関係機関情報交換会やおの就職ガイダンスの開催など、高等学校、公共職業安定所、県、市が連携した取組を行い、高校生就職希望者の就職率100%を達成したが、市内新規学卒者雇用数は目標数値と比較し、目標を大幅に下回る結果となった。 今後は、令和元年度から開始した奨学金返還支援補助金等の市独自の制度等を活用し、高校卒業後に一旦市外の学校に進学した生徒等に対する市内企業のPRを図りながら、新規学卒者雇用数の増につなげていく。	商工労働課	47	
					実績値	77	64	60	40	41							
	3	企業の新設・増設件数	件	1	目標数値	1	1	1	1	1	1200.0	達成			農業関連事業所が1社立地したほか、市内企業11社の新たな設備投資に対し税制支援措置を講じた。	商工労働課	47
					実績値	2	1	5	10	12							
【重点プロジェクト2】 タフな農林畜産業の6次 産業化と新たな仕事の創 出	4	45歳未満の認定新規就農者	人	1	目標数値	5	5	5	5	5	60.0	未達成	(新規就農者が自らの就農・農業経営に関する計画を認定する制度により認定新規就農者となった人数。) 認定新規就農者となることにより、資金の融資等の支援を講じることができた。 新規就農者へのサポート体制を充実させ、個々の経営目標の達成のためきめ細やかな支援を行う。			畜産園芸課	54
					実績値	6	8	7	2	3							
	5	重点野菜出荷額	億円	1.3	目標数値	1.3	1.4	1.7	2.0	2.3	78.3	未達成		(重点品目として位置付けるほうれんそう、ニラ、ピーマン、アスパラガスの出荷額。) 重点品目のうち、ほうれんそうとニラについては栽培面積の減少により出荷額が減少となったが、アスパラガスについては、定植から3年目となり出荷量が増加した。 今後も安定生産を目指し、生産意欲拡大と作付面積の維持に向けアスト加速化事業の周知を図るとともに関係機関と連携したきめ細やかな支援を実施しながら、栽培面積と確保と安定した出荷を目指し、産地としての支援を継続する。		畜産園芸課	54
					実績値	2.2	1.4	1.4	1.9	1.8							
	6	農産物直売所売上額	億円	5.5	目標数値	5.6	5.6	5.7	5.8	5.9	93.2	未達成			【まちづくり指標No.67と同様】 東北横断自動車道の全線開通によるストロー現象により、市内産直の売上げの減少が危惧されることから、県内最大の商圏である盛岡圏域の販路拡大を目的に、産直ネットワーク構築事業を行った。市内産直物品の市外出荷体制の構築を目標に取り組んできたが、結果、盛岡市内2店舗で展開してきた販売を1店舗に集約することとなった。市内農産物直売所では組合員の減少により、他への出荷が厳しい状況にあり、ストロー現象の影響はそれほど大きくなく、市内農産物直売所が目的化されていることが、同事業を通じて把握できた。 一方で産直連絡協議会が中心となり、定期的な情報交換会や産直個々の実践研修を行い活性化に取り組んだ。しかし、産直組合の解散や店舗の縮小の影響により、全体の売上高は微減した。今後も、各産直と連携を図り、売り上げ確保に努めていく。	畜産園芸課	55
					実績値	6.2	6.1	5.9	5.9	5.5							
	7	6次産業化関連効果額	億円	16.5	目標数値	16.9	17.0	17.2	17.3	17.4	106.3	達成	【まちづくり指標No.68と同様】 遠野市内農産物直売所や市内加工出荷額が安定的な売上となっており目標数値を達成することができた。ただし、令和2年3月期売上実績がコロナウイルス感染症の影響が出始めていることにより減少が見受けられる。工業統計調査による食品製造業出荷額は、概ね次年度公表となることから過去実績の推計値としているが、目標額を超える数値で推移している。 海外への販路開拓においては、平成28年度から平成30年度まで地方創生推進交付金を活用して台湾や米国との取引につながり、現在は民間事業者が連携した協議会が引き続き販路を拡大しながら実績をあげており六次産業関連効果額を押し上げている。 [六次産業関連効果額] ・製造品出荷額（食料品） 4.8億円（推計値：工業統計公表前） ・加工品出荷額 2.3億円 ・特産品販売額 5.9億円 ・農産物直売所売上額 5.5億円 （合計） 18.5億円（推計値含む）			商工労働課 六次産業室	55
					実績値	16.9	17.1	17.4	18.2	18.5							

プロジェクト名	番号	内容	単位	現状 (26年度)	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	達成率	達成状況	成果・評価	担当課	総合戦略 掲載ページ	
【重点プロジェクト3】 観光振興と交流人口の拡大による「で・くらす遠野」定住の促進	8	定住者世帯数	世帯	61	目標数値	70	85	100	120	140	77.9	未達成	【まちづくり指標No.92と同様】 首都圏での移住相談会への参加や県南広域振興局、県南地域他市町と連携した移住者向けセミナーを実施するとともに、「で・くらす遠野」として常に移住希望者のワンストップ窓口を心掛け、認定NPO法人山・里・暮らしネットワークをはじめ関係機関と情報共有しながら対応したことで、令和元年度の相談件数は延べ66件に増加し、うち11世帯21人が移住した。 目標達成のためには、依然、移住・定住希望者向けの空き家の確保が課題であり、令和元年度に開催した移住者交流会の情報交換のなかで提案のあった、今後の定住促進への取組みにつながる「で・くらす制度」への意見等を参考として、日本全国の移住先の中から遠野を選んでいただけるような特徴ある施策の実施についても検討していく。 今後も、リフォーム事業助成金の利用促進、市内の不動産業者との連携を進めて物件確保のうえ、遠野の魅力を発信するとともに、住居及び仕事に関するPRも合わせて周知することで目標達成につなげる。	観光交流課	63	
					実績値	74	83	92	98	109						
	9	道の駅を含む主要観光施設観光客数（外国人観光客）	万人 (外国人：人)	184 (1,208)	目標数値	184 (1,500)	185 (1,500)	186 (1,800)	187 (2,100)	188 (3,000)	91 (124.6)	未達成	【まちづくり指標No.87、90と同様】 観光推進協議会の発足により、市内の観光関係機関・団体の活動が点から面への活動に変わりつつあり、令和元年度は（一社）遠野市観光協会内に専任職員が配置され、アクションプランに基づいた事業の取組を行ってきた。 令和元年度は、道の駅遠野風の丘で行われた「県内道の駅交流物産展」ほか、ラグビーワールドカップ2019・三陸防災復興プロジェクト2019の発信事業などについて、県の地域経営推進費を活用しながら関係機関との連携を強化した事業に取り組んだ。 市は、総合計画に基づく事業の推進を図りながら、新型コロナウイルス感染症の影響で落込んだ観光客入込数の回復に向けて、各団体が実施主体となって自発的な取り組みがなされるよう指導を行うとともに、「観光アクションプラン」の進行管理とPDCAサイクルに基づいた効果検証を行い、道の駅遠野風の丘から市内各観光施設への回遊を促進させ、市内全域の観光客入込数の回復を目指す。	観光交流課	63	
					実績値	181 (1,542)	163 (2,334)	156 (3,368)	171 (2,832)	167 (3,737)						
	10	観光者宿泊数（民泊者数再掲）	千人 (民泊者数：人)	87 (1,055)	目標数値	76 (1,100)	79 (1,125)	81 (1,150)	83 (1,175)	85 (1,200)	81.2 (91.5)	未達成	【まちづくり指標No.89と同様】 観光推進協議会の発足により、市内の観光関係機関・団体の活動が点から面への活動に変わりつつあり、令和元年度は（一社）遠野市観光協会内に専任職員が配置され、アクションプランに基づいた事業の取組を行ってきた。 令和元年度のゴールデンウィークは10連休ということもあって、春から夏にかけて宿泊客の増加が見受けられ、遠野のふゆイベントを代表する「遠野ふゆまつり」の「御朱印めぐり」や「どぶろくまつりin遠野座」などの新規企画で、恒例化していた遠野のふゆイベントに新しい観光コンテンツを生み出した。 しかし、秋以降の宿泊客は例年と比較して減少傾向となり、さらに2月からは新型コロナウイルス感染症拡大の影響から入込を持ち直すことができず目標に達することができなかった。 市は、総合計画に基づく事業の推進を図りながら、新型コロナウイルス感染症の影響で落込んだ観光客入込数の回復に向けて、各団体が実施主体となって自発的な取り組みがなされるよう指導を行うとともに、「観光アクションプラン」の進行管理とPDCAサイクルに基づいた効果検証を行い、道の駅遠野風の丘から市内各観光施設への回遊を促進させ、市内全域の観光客入込数の回復を目指す。	観光交流課	64	
					実績値	85 (1,280)	77 (1,773)	67 (1,361)	71 (996)	69 (1,098)						
	11	地域間交流者等受入数	人	681	目標数値	700	700	700	700	700	117.7	達成	友好都市や平成・南部藩構成市町との市民交流・児童交流・経済交流を推進したことにより、お互いの歴史や文化を学び合うとともに、人とモノの両面での交流が図られ、相互理解が深められた。また、みらい創りカレッジを拠点とした首都圏大学の研修の受入など、交流推進の拠点として継続的な取り組みを行うことにより、目標達成につながった。 今後も、常に交流の在り方を検証しながら事業を展開することで、交流人口の拡大が期待できる。	観光交流課	64	
					実績値	961	1,802	1,264	861	824						
	【重点プロジェクト4】 「子育てするなら遠野」の推進	12	合計特殊出生率	人	1.90	目標数値	1.90 (H26実績)	1.90 (H27実績)	1.92 (H28実績)	1.92 (H29実績)	1.94 (H30実績)	86.6	未達成	【まちづくり指標No.45と同様】 「わらすっこプラン推進事業」として、わらすっこ条例応援事業所を新たに6カ所認定したほか、毎月の遠野テレビや広報による子育て関連事業の周知、わらすっこまつりの開催等により、地域や事業所ぐるみで子育てを応援する環境の充実を図った。 指標である合計特殊出生率については、目標数値と比較して0.26下回る結果となった。国の1.42、岩手県の1.55を上回っているが、依然として少子化傾向である。 今後は、令和元年度に策定した「第2次遠野わらすっこプラン」に基づき、次代を担う子どもを産み育てる家庭を地域みんなで応援し、子どもが心身ともに健やかに育つためのより実効性のある施策を推進する。	子ども政策課	71
						実績値	1.93	1.64	1.71	1.71	1.68					

プロジェクト名	番号	内容	単位	現状 (26年度)	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	達成率	達成状況	成果・評価	担当課	総合戦略 掲載ページ
	13	児童館・児童クラブ年間 延人数	人	136,911	目標数値	136,250	137,900	138,400	138,950	139,450	92.8	未達成	【まちづくり指標No.48と同様】 令和元年度の延べ利用人数は、目標数値に対して10,047人下回った。 保護者会への事業費補助金交付による活動の活性化や児童館等職員の各種研修受講による支援の質の向上を図ったが、出生数の減少の影響や放課後の過ごし方の多様化により、利用人数が減少したものと考えられる。 今後も、児童の健全育成の場、子どもの居場所として、活動内容の充実や児童館・児童クラブ施設の計画的な整備を図り、利用者のニーズに沿った管理運営に努めていく。	こども政策課	71
					実績値	140,709	135,305	132,123	131,794	129,403					
	14	わらすっこ割合	%	14.02	目標数値	14.02	14.02	14.02	14.02	14.02	94.2	未達成	【まちづくり指標No.47と同様】 「わらすっこプラン推進事業」として、これまで実施してきた各種取組を着実に推進するとともに、令和元年度は縦横保育園の改築、わらすっこ基金施設使用料サポート事業、幼児教育・保育無償化に伴う副食費助成等を実施し、子育て環境の更なる充実を図った。 指標であるわらすっこ割合（年度末における、18歳以下の人口の割合）については、目標値と比較して0.82ポイント下回ったが、概ね達成することができた。 今後は、令和元年度に策定した「第2次遠野わらすっこプラン」に基づき、次代を担う子どもを産み育てる家庭を地域みんなで応援し、子どもが心身ともに健やかに育つためのより実効性のある施策を推進していく。	こども政策課	71
					実績値	13.86	13.71	13.52	13.35	13.20					
【重点プロジェクト5】 高齢者の自立と社会参加の促進	15	ICT健康づくり事業 参加者数	人	462	目標数値	500	550	600	620	640	199.8	達成	市内事業所（企業）への加入促進により新たに3事業所が加入し、事業者団体は8団体となった。個人も含めた事業参加者は、1,279人となり医療費抑制に向けたヘルスケア事業に取り組んだ。 定期的に健康情報を発信したほか、参加者による口コミなどにより着実に『健幸のWA』が広がってきている。 若い世代の歩数変化に課題が残ることから、ICT技術を駆使しながら日々の歩数状況などを常に意識してもらうよう継続していく。	医療連携室	78
					実績値	471	718	972	1,042	1,279					
	16	特定健康診査受診率	%	50.2	目標数値	60	60	60	60	60	83.7	未達成	【まちづくり指標No.28と同様】 受診率（健診年度は平成30年度、令和元年10月末に確定）は、昨年度より0.4ポイント上昇し、目標受診率には達しなかったものの、県内14市の中では2番目の高さであり、33市町村では9番目という現況。上昇した理由として、従来から実施している土日や夜間及び冬期の追加健診の実施、検査内容の充実、保健推進委員の訪問等による地道な受診勧奨、職場健診や人間ドックなど市の健診以外で受診した被保険者の健診結果の収集（被保険者の提供への協力）などを一貫して継続してきたことが、受診率の維持・微増へとつながっていると考える。これまで夏季の特定健診限定で実施していた未受診者を対象とした未受診理由調査を冬期の健診時も行い、個別で人間ドックや職場で健診を受けている被保険者の把握・健診結果の提供依頼を行ったことなども、受診率の増へつなげたと考える。	健康長寿課	78
					実績値	47.6	49.4	49.6	49.8	50.2					
17	シルバー人材センター受 託事業の就業延べ人数	人日	15,045	目標数値	16,500	17,000	17,500	18,000	18,000	52.9	未達成	【まちづくり指標No.36と同様】 令和元年度の会員は、前年度に比べ11人少ない加入数となったが、退会者が18人と合計会員数は3人増の210人となった。会員数は増となったものの、就業延べ人員は前年度に比べ2746人日の減少となった。これはシルバー人材センターで適正就業の見直しを行い、有料職業紹介事業及び労働派遣事業へ移行したことによるものである。 目標値には達しなかったが、家庭等の軽易な修繕や一般作業、市としても軽度生活援助事業など地域に密着した就業機会の提供を行い、就業率100%と高齢者の生きがいの充実と福祉の増進を図った。 今後も、補助金を交付することにより働く意欲のある高齢者を会員の取り込み、新規受託事業の拡大の支援を行っていく。	健康長寿課	78	
				実績値	13,921	14,540	13,812	13,084	9,514						
【プロジェクトX】 人と人とのふれあいによる“しあわせ度”の向上	18	遠野市ひとパワー (10の市民協働事業への 参加者)	HP (ひとパワー)	52,144	目標数値	53,000	54,000	55,000	56,000	58,000	90.8	未達成	遠野市のひとパワーの測定は、以下の10事業の参加者である。 10の事業のうち、6つの事業については前年度を上回ったが、総体としては前年度を下回る実績となり、目標値を達成することができなかった。 目標を達成することができなかった要因の一つとして、一部の事業において、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業をすべて実施することができなかったことなどがあげられる。		83
					実績値	49,615	51,244	53,616	53,992	52,646					

プロジェクト名	番号	内容	単位	現状 (26年度)	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	達成率	達成状況	成果・評価	担当課	総合戦略 掲載ページ
	18-1	日本のふるさと「遠野まつり」参加者数	人	9,500	実績値	10,000	9,400	10,000	10,000	9,825			令和元年度は、地元で参加者が整わないため参加を見合わせる郷土芸能団体があったことや、2日目が降雨のため出演を見合わせた団体があり、例年と比較して若干減少した。屋外イベントのため、参加者数については天候に左右される部分もあるが、遠野まつりファンを少しでも増やすため、令和4年度の50周年に向けて、魅せて体感できる新たな「日本のふるさと遠野まつり」を構築していく必要がある。	観光交流課	
	18-2	市民協働の芸術文化事業の参加者及び鑑賞者数	人	11,563	実績値	6,702	9,580	9,691	8,328	7,743			【まちづくり指標No.107、108と同様】 令和元年度の参加者数は1,294人、鑑賞者数は6,449人となり目標を達成出来なかったが、多くの芸術文化事業を企画・支援し振興を図った。 今後は特に子ども達も芸術文化に触れる機会をつくり、次代の芸術文化事業を担う人材を育てる。	生涯学習スポーツ課	
	18-3	遠野こだわりの「語り部」認定数	人	710	実績値	792	837	878	932	984			【まちづくり指標No.121と同様】 認定者数の拡大のため、認定に向けたスクーリングを7回開催した結果、令和元年度は昔話1人、子ども語り部30人、歴史16人、生業5人の合計52人を認定し、目標を達成することができた。 特に、子ども語り部については、学校との連携を図りながら取り組むことができた。このほか、郷土芸能の語り部の研修の機会として「町家で楽しむ女子神楽」を開催し、研修の機会と場を提供するとともに、中心市街地活性化に寄与した。 今後も、学校や地域団体などと連携しながら語り部の認定を行い、研修の機会と場を提供しながら、遠野の「語り」の文化を次代に継承していく。	文化研究センター	
	18-4	みんなで築くふるさと遠野推進事業参加者数	人	1,654	実績値	1,909	1,977	2,323	3,717	3,963			【まちづくり指標No.126と同様】 全11地区が「地区まちづくり一括交付型事業」に移行してから2年目の取組となり、参画者数は前年度に比べて246人の増加となった。 各地区地連協が中心となり、地域のニーズに応じた新たな事業を多数展開したことで、事業数と比例する形で参画者数の増加につなげることができた。 今後も、地域課題解決に向け地域住民の意見要望等を取り入れつつ新たな取組が進められるよう、参画者の拡大に取り組んでいく。	市民協働課	
	18-5	環境整備事業（市内一斉河川清掃・花いっぱい運動）参加数	人	12,044	実績値	11,792	11,781	11,425	10,688	10,261			市内一斉河川清掃は、【まちづくり指標No.123と同様】 (河川清掃:6,328人) 河川清掃の参加者は、計画値を992人下回った。参加が困難な高齢者のみの世帯が増えており、参加者は減少傾向にあるが、地域活動への参加意識は依然として高く、多くの住民の協力により、水辺の環境保全を図ることができた。 (花いっぱい運動:3,933人) 花いっぱい運動の参加者数は前年比158人減の3,933人となったが、各地区で花壇整備箇所を設定し、地域を多数の花で彩ることができた。 参加者の高齢化が顕著であることから、今後は地域内における新たな担い手が参画できるような取組についても検討を進めていく。	環境課 市民協働課	
	18-6	元気楽しく高齢者体力アッププログラム等健康づくり教室参加者	人	6,248	実績値	5,647	5,488	5,319	4,968	3,457			運動機能の低下が見られる高齢者を対象に筋力向上教室を短期間で集中的に実施した。終了後には生活機能の向上がみられ、外出機会が増えるなど閉じこもり予防の面からも効果が見られている。この他、各種健康教室を多数実施している。今後は、住民主体の通いの場の拡大、支援により、地域で仲間と共に持続的に介護予防に取り組める場を増やしていく。	健康長寿課	
	18-7	認知症サポーター登録者数	人	2,262	実績値	2,488	2,864	3,082	3,272	3,533			地域住民や学校等の協力のもと認知症サポーター養成講座を開催することで、参加者の認知症についての正しい理解と「認知症の方を地域で支えていく」という意識の醸成が図られた。養成講座には小学生から高齢の方まで幅広い年齢層の方が参加し、認知症を正しく理解することで、認知症の方やその家族への支援につながっている。 今後も、各種団体や学校等に対して継続した働きかけを行い、サポーターの養成につなげていく。	健康長寿課	
	18-8	S L 停車場プロジェクト「お出迎え隊」延べ参加者数	人	1,629	実績値	1,601	955	1,359	1,483	1,681			令和元年度から「遠野市観光推進協議会」が実施主体となり、遠野町地域婦人団体協議会、きものを楽しむ会、各郷土芸能団体及び座敷わらし隊等のメンバーによって、S L 銀河運行日にお出迎えやイベント等を全ての運行日（62日）実施した。 特に、座敷わらし隊でのお出迎えが喜ばれており、訪日外国人観光客やカメラマンなど多くの観光客に対してお出迎え対応した。 令和2年度8月16日が今年のラストランとなり来年度中旬まで車両点検に入るため、東北デスティネーションキャンペーン後など、S L 銀河活用した新たな観光振興策を検討していく。	観光交流課	
	18-9	町民運動会参加者数	人	5,000	実績値	5,760	5,113	3,981	4,498	4,954			4年ぶりに全9町で開催された。各町の特徴を生かした内容で実施され、人口減少の中でも一定の参加者数となった。 楽しく体を動かしつつ、地域内や世代間の交流も図られていることから、地域づくり活動の柱の一つとして開催支援の継続を図る。	生涯学習スポーツ課	
	18-10	遠野みらい創りカレッジ参加者数	人	1,534	実績値	2,924	3,249	5,558	6,106	6,245			(一社)遠野みらい創りカレッジが運営する各種プログラム参加者に加えて、新たにカフェレストラン「スクオーラカフェテリア アダージョ」がオープンしたことにより、参加者数が増加した。 今後も魅力あるプログラムの企画とカフェレストランの堅実な運営により、多くの参加・利用者を確保していく。	生涯学習スポーツ課	